

ブラジルのラテンアメリカ統合連邦大学 (UNILA) —地域統合に向けた大学の姿—

田 村 徳 子
(大阪公立大学)

はじめに

グローバル化の進展に伴い、国境を越えた人・物・情報の流れが活発化するなか、国際競争力を高めるために地域間での連携や協力を図る動きが広がっている。そのなかで高等教育は、人材育成の観点から国や個別機関を越えた改革が進められている。たとえば、ヨーロッパでは、1999年のボローニャ宣言に基づきヨーロッパ高等教育圏が確立され、各国の高等教育制度の調和が図られている。また、アジアでは、英語による授業の導入や、外国人教員の採用、ダブルディグリーや国際バカロレア (IB) の導入といった国際的な枠組みに対応する戦略が各国で展開されている。同様の動きはラテンアメリカでもみられ、1995年に南米の地域経済圏メルコスール (MERCOSUL: Mercado Comum do Sul、南米南部共同市場) が確立され、そのなかで高等教育分野における教育・研究を通じた地域統合がめざされている。

本稿で取り上げるブラジルのラテンアメリカ統合連邦大学 (Universidade Federal da Integração Latino-Americana、以下 UNILA) は、このメルコスールのなかで構想された大学である。詳細は後述するが、UNILA は、2010年に設立されたブラジルの公立大学であり、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの三国の国境近くに位置する (図1)。「ラテンアメリカ統合」という大学名からも想像できるように、その使命を「ラテンアメリカ統合、地域開発、ラテンアメリカ、特

にメルコスールにおける文化・科学・教育交流に貢献できる人材の育成」とし、「高等教育を提供し、さまざまな知識分野における研究を発展させ、大学の拡張を促進すること」がめざされている¹。この UNILA の特筆すべき特徴の1つとして、先住民、難民、人道的ビザ保有者といった社会的弱者を積極的に受け入れている点があげられる。ブ

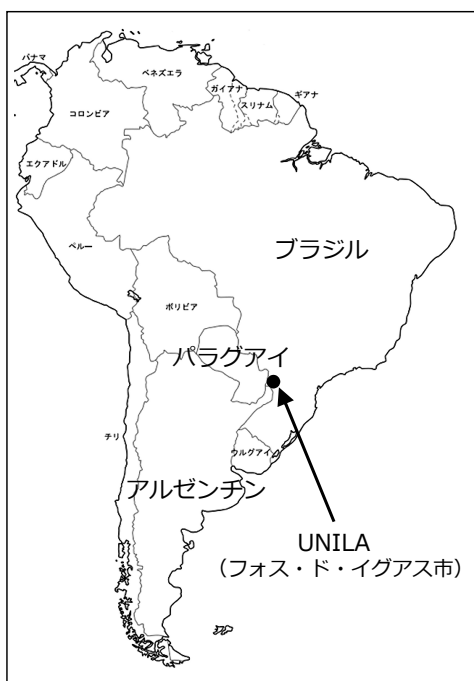


図1 ラテンアメリカ統合連邦大学 (UNILA) の位置

出所：白地図専門店 (https://www.freemap.jp/itemFreeDIPage.php?b=south_america&s=southAmerica) より筆者作成。

ラジルを含むラテンアメリカ地域では、歴史的に大学教育は主に白人の富裕層を対象としており、社会的少数派や経済的に恵まれない層からのアクセスは著しく制限されてきた。1990年代以降、いわゆる新自由主義的改革によって私立大学が増加した結果、一部の一般大衆に大学進学が広がったものの、依然として貧困層や先住民など、社会的に脆弱な立場にある人々にとっては、大学進学ハードルは高いままである²。こうしたなか、先住民や難民、人道的ビザ保有者を留学生として多く受け入れる UNILA はブラジルのなかでも稀有な大学であり³、認知度は高くないばかりか、大学が拠点を置く地元の人々からも奇異の目を向けられる傾向がある。

先行研究をみると、日本ではラテンアメリカの高等教育研究自体がきわめて限られるうえ、UNILA に関するものは皆無である。一方、ラテンアメリカの地域統合に関連した高等教育に関する研究としては、斉藤によるラテンアメリカ地域の地域間における大学連携の様相を明らかにした研究⁴や、ラテンアメリカの高等教育の改革を扱った研究⁵、また、ラテンアメリカの新しいタイプの大学としてメキシコの先住民民族大学を扱った研究⁶があるのみである。いずれも約10年かそれ以前のラテンアメリカの大学の状況を扱ったものであり、UNILA に関する情報は含まれていない。本稿は、地域統合における高等教育の国際化あるいは国際連携に関する研究として位置づけるものであるが、日本の高等教育研究において、ヨーロッパやアメリカ、アジア、中近東地域を対象とした研究が蓄積されるなか、不足しているラテンアメリカ地域の知見を付加できる点、また UNILA という特殊な大学の存在を支えるラテンアメリカの地域性を含めた大学観の一端を提示できる点で意義があると考えられる。

以上をふまえ、本稿では、ラテンアメリ

カの地域統合に向けて設立されたブラジルの UNILA に着目し、設立経緯や教育内容、入学者の状況から、その姿を描き出すことを目的とする。本稿の構成は以下のとおりである。まず、UNILA の設立背景について、ラテンアメリカ地域の大学連携やラテンアメリカの地域統合の動きに着目しながら整理する（第1節）。つづいて、UNILA の教育概要について、教育プログラムや学生、大学評価（第2節）、入学者選抜について確認する（第3節）。そして最後にこれらをとおしてみえてくる UNILA の姿を考察する。なお、本稿で用いるデータ資料は、論文や法規、UNILA の公式ウェブサイトに掲載されている情報のほか、筆者が2024年2月27日に現地調査をした際に入手した資料などである。

1. ラテンアメリカ統合連邦大学 (UNILA) の設立背景

(1) ラテンアメリカにおける地域統合に向けた大学間の動向

本節では、UNILA の設立経緯を確認するが、本題に入る前に、まず当該地域における大学の歴史的展開について簡単に触れておきたい。ラテンアメリカ諸国の大学は、スペイン植民地時代に設置された同一モデルを規範として設立、運営されてきた、いわゆる植民地大学という共通性をもつ⁷。一方で、ポルトガルの植民地支配を受けてきたブラジルでは、植民地時代に専らポルトガル本土への留学という形態がとられたこともあり、その地に大学が設置されはじめたのは、他のラテンアメリカ諸国よりも遅く、20世紀に入ってからのものであった⁸。19世紀前半にラテンアメリカ諸国が独立した後、植民地大学は各国の国立大学として再編されるも、各国内での政治不安や内乱、クーデターの影響により、大学の発展は容易には進まなかった⁹。

こうしたラテンアメリカの大学の状況に近代化や民主化をもたらしたのが、1918年にアルゼンチンの国立コルドバ大学でおこった、通称コルドバ改革である。コルドバ改革は、植民地時代に由来するエリートを対象とした独断的で排他的な大学のあり様に対し、運営の民主化や一般大衆への開放、社会問題への積極的関与を求めた大学改革運動であった¹⁰。このコルドバ改革を契機として、ラテンアメリカ地域全体で大学の自治や社会的責任、共同統治の原則を掲げた運動が広まり、さまざまな大学間で対話が交わされ、改革が進められることとなった。

ラテンアメリカの大学における具体的な地域統合に向けた動きが生じたのは、1930年にウルグアイのモンテビデオから提案されたアメリカ文化大学（Universidad de la Cultura Americana）の設立構想である¹¹。その後、1950年にグアテマラで開催された第1回ラテンアメリカ大学会議ではラテンアメリカ大学院大学（Universidad Latinoamericana de Postgrado）の設立も提案されている。これらの構想はいずれも、各国が抱える政治的な領土問題や、国家および民族に関する制度的・文化的な課題のために実現には至らなかった。一方、1949年にラテンアメリカ地域における大学間連携の推進および調整を目的として設立されたラテンアメリカ大学連合（UDUAL: La Unión de Universidades de América Latina）は、後にその名称をラテンアメリカ・カリブ海大学連合（UDUALC: La Unión de Universidades de América Latina y el Caribe）へと変更し、現在も存続している¹²。実は、UNILA設立の起源はこのUDUALCのなかにみいだすことができる。具体的には、UDUALCが1960年代に主催した会議において、ラテンアメリカ地域の統合をめざす大学の設立構想が議論されたことが、その発端であった。このラテンアメリカ大学構

想は、いったんは保留になるものの、メルコスールの確立や、ボローニャ宣言の影響を受け¹³、ルーラ大統領（就任期間：2003年－2011年、2023年－現在）の時代に再び議題として浮上することとなった。

（2）ラテンアメリカ地域の自由貿易圏メルコスールにおける大学の位置づけ

ここで改めて、メルコスールについて説明を加えておきたい。メルコスールは、ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイが1991年に締結したアスンシオン条約に基づき、1995年に発足した関税同盟である。その取り組みとしては、（1）域内の関税および非関税障壁の撤廃等による財、サービス、生産要素の自由な流通、（2）対外共通関税の創設、共通貿易政策の採択および地域的・国際的な経済・貿易面での協調、（3）マクロ経済政策の協調および対外貿易、農業、工業、財政・金融、外国為替・資本、サービス、税関、交通・通信等のセクター別経済政策の協調、（4）統合過程強化のための関連分野における法制度の調和がある。実は、アスンシオン条約においては、教育分野は明確には含まれていなかった。しかしながら、当初から教育は地域格差の克服、民主主義の強化、経済・社会開発、地域統合の中心的な手段であるという締約国の共通理解がなされており、1991年12月にメルコスール加盟国教育大臣会合（RME: Reunião de Ministros da Educação）が設立され¹⁴、加盟国および準加盟国の教育政策を調整する場として、メルコスール教育セクターが設置された¹⁵。

ブラジルのルーラ大統領は、ラテンアメリカ統合に積極的な立場をとり、メルコスールについてもその深化に尽力した。そしてこのことはラテンアメリカ地域の高等教育の連携に対しても大きな影響を与えた。2006年11月にブラジルのペロオリゾンテで開催されたメルコスール高等教育フォー

ラムにおいて、当該諸国間の連帯による学術協力の促進を目的としたメルコスール地域高等教育圏 (Espaço Regional de Educação Superior do Mercosul) の実現が誓約されるなか、臨時議長国であったブラジルはメルコスール大学の設立を提案している。しかしながら、法的、運営上の問題から承認には至らず、代替案としてブラジルが提案したのが、UNILA の前身となるメルコスール高等研究所 (IMEA: Instituto Mercosul de Estudos Avançados) の設立であった。2007年5月29日に開催された第32回メルコスール閣僚会議において承認された同研究所は、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の大学の交流・協力を促進し、大学院レベルの高度な研究・研修に貢献することを使命とする機関として、(1) 承認 (教育機関／国間の学位相互メカニズムとしてのキャリア承認制度)、(2) 学生の流動性 (単位互換制度)、および (3) 機関間協力 (提携機関間の共同教育・研究プログラム) を進める場としての役割を担うこととなった¹⁶。

(3) UNILA の設立経緯

ルーラ大統領は、メルコスール高等研究所を基盤としてブラジル国内で UNILA 設立にむけた法整備を進めていく。2007年12月、ブラジル教育省がルーラ大統領に提出した UNILA の設立を提案する法案には、つぎのことが目標として掲げられた。(1) 高度に専門化された人材を育成する必要に応えること、(2) 文化的・社会的発展と統合に貢献すること、(3) 連帯協力ネットワークの促進により地域の大学・研究機関間の科学技術交流の発展を促すこと、(4) ラテンアメリカ諸国間の学術交流を促進することである。その拠点としてパラナ州フォス・ド・イグアス市が選ばれた主な理由は、そこがブラジル、アルゼンチン、パラグアイという南米3カ国の国境の合流地点であり、対話と地域交流を促進するための戦略的な

立地であったことにある。ほかにも、当該地域における大学へのアクセスの問題、具体的には、ブラジル側では西パラナ州立大学 (UNIOESTE: Universidade Estadual do Oeste do Paraná) フォス・ド・イグアスキャンパスで5つのコースが提供されるのみであったこと、パラグアイ側では私立の高等教育機関しかなかったことがある。また、アルゼンチン側のミシオネス州は最も恵まれない地域の1つであり、大学設立により地域を活性化したい狙いもあった¹⁷。さらに、この地に拠点を置くイタイブ・ピナオシオナル (イタイブ二国間水力発電所、以下、イタイブ) に協力を仰ぐことができるというメリットもあった。イタイブは、ブラジルとパラグアイの国境にあるパラナ川の水源を利用した水力発電所であり、ブラジルとパラグアイ両国が協働で運営する二国間事業である。実際、イタイブの UNILA への貢献は大きく、後述する UNILA 実行委員会 (CI-UNILA: Comissão de Implantação da UNILA) の活動への協力や、二国間事業体の株式資本を基にした資金の提供、キャンパスの土地や学生向け寮の建物の提供などをおこなっている。

2008年3月に設置された UNILA 実行委員会は、研究を実施し、国内および国際的な議論を促進するとともに、新大学の構想、実施計画、学術的組織構造、教員と学生の選抜基準、教育、研究、普及政策、国際協力政策および民主的運営などのあり方を提案する役割を担った¹⁸。また、UNILA 実行委員会はユネスコからの支援も受けている。その支援は、技術コンサルタントの雇用からはじまり、海外出張の支援、会議の開催、文書の準備、報告の作成、図書館の設立準備まで、多岐にわたるものであった¹⁹。さらに、2008年6月に教育省は同州に拠点を置くパラナ連邦大学 (UFPR: Universidade Federal do Paraná) と協力協定を締結し、同大学が UNILA 実行委員会に対する学術的

サポートをおこなうチューター大学となった。

以上のように、UNILA はイタイブとパラナ連邦大学と共同する形で、2010 年 1 月 12 日付法律第 12189 号によって設立された。一方、2011 年にルーラ大統領が退任した後、UNILA は新キャンパスの建設を含む予算面で厳しい状況に直面し、その発展において不利な立場に置かれることとなった。これに対し、2023 年にルーラが大統領に返り咲いたことは、UNILA 発展にとって重要な追い風となるものと推察される。

2. ラテンアメリカ統合連邦大学（UNILA）の概要

本節では、UNILA が提供する教育プログラム、学生、大学評価に関する情報を確認し、その様相の把握を試みる。

（1）教育プログラムについて

UNILA に設置するコースや研究分野を巡っては、大学設置構想段階から UNILA

実行委員会が 100 人以上の専門家との国際的な協議をしながら検討された。その際、統合のための戦略的分野とみなされる教員養成や、自然資源、国際関係、文化プロセス、芸術とコミュニケーション、地域開発を重視することが取り交わされている²⁰。2010 年 1 月 12 日付法律第 12189 号では、科目について、「ラテンアメリカ諸国、特にメルコスール加盟国が相互に関心をもつ分野であることが望ましく、天然資源の開発、国境を越えた生物多様性、地域の社会・言語研究、国際関係、その他地域の発展と統合にとって戦略的と考えられる分野に重点を置く」とされている（2010 年 1 月 12 日付法律第 12189 号第 2 条 2 項）。

2024 年現在、UNILA では 29 の学部課程プログラムと、13 の修士課程プログラム、2 つの博士課程プログラム、そして大学院課程ではあるが学位は授与されない専門コースが 9 つ提供されている。学部課程プログラムについて、以下の 4 つの研究所が設置されている。すなわち（1）ラテンアメリカ芸術・文化・歴史研究所（ILAAC

表 1 ラテンアメリカ統合連邦大学（UNILA）における学部課程プログラム

ラテンアメリカ 芸術・文化・歴史研究所	ラテンアメリカ 生自然科学研究所	ラテンアメリカ 経済社会政治研究所	ラテンアメリカ 技術インフラ領土研究所
① 人類学（ラテンアメリカ文化の多様性） ② 映画・視聴覚 ③ 歴史学（リセンシアトゥーラ ^注 ） ④ 歴史学（ラテンアメリカ） ⑤ 文学（芸術・文化媒介） ⑥ 言語学（外国語としてのスペイン語・ポルトガル語） ⑦ 音楽	① バイオテクノロジー ② 生物科学（生態学と生物多様性） ③ 自然科学（生物学、物理学、化学） ④ 物理工学 ⑤ 数学 ⑥ 医学 ⑦ 化学（リセンシアトゥーラ ^注 ） ⑧ 集団衛生学	① 行政学と公共政策 ② 政治学と社会学 ③ 経済科学（経済学・統合・開発） ④ 農村開発と食糧安全保障 ⑤ 哲学 ⑥ 国際関係と統合 ⑦ 社会サービス	① 建築と都市学 ② インフラ土木工学 ③ エネルギー工学 ④ 材料工学 ⑤ 化学工学 ⑥ 地理学（リセンシアトゥーラ ^注 ） ⑦ 地理学（学士課程）

注：リセンシアトゥーラとは、教員養成課程のことである。

出所：UNILA, *Cursos de Graduação* (<https://portal.unila.edu.br/graduacao> 2024 年 7 月 10 日取得)。

: Instituto Latino-Americano de Arte, Cultura e História)、(2) ラテンアメリカ生自然科学研究所 (ILACVN: Instituto Latino-Americano de Ciências da Vida e da Natureza)、(3) ラテンアメリカ経済社会政治研究所 (ILAESP: Instituto Latino-Americano de Economia, Sociedade e Política)、(4) ラテンアメリカ技術インフラ領土研究所 (ILATIT: Instituto Latino-Americano de Tecnologia, Infraestrutura e Território)である。それぞれの研究所に設置されたプログラムは表1に示すとおりである。

UNILA の学部課程では、全コースの必修として、(1) ラテンアメリカの基礎、(2) 言語学(ポルトガル語とスペイン語の学習)、(3) 方法論(哲学と認識論)の共通カリキュラムが組み込まれている²¹。(1) ラテンアメリカの基礎は、学際的な視点から、ラテンアメリカとカリブ海諸国の文化的・政治的様相を理解するための学問である。歴史的に住民に影響をおよぼしてきたさまざまな問題の解決策をみいだすことを目的に、複数の大陸の特徴と現実に付随する問題を批判的に議論する内容となっている。(2) 言語学は、多文化的な大学として、多言語化をめざしたものである。スペイン語圏の学生はポルトガル語を、ブラジル人学生はスペイン語を学習することとなっている。(3) 方法論(哲学と認識論)は、さまざまな研究分野や専門活動で必要とされる科学的方法に取り組み、調査態度を身につけるための基礎となる学問である。そこでは、従来、大学を構成してきた西欧的な知としての学問ではなく、「民衆的な知や平民的な知、農民的な知、土着的な知²²」といった、被植民地側あるいは被抑圧者側の知識、方法について学ぶことがめざされている。その最も象徴的な実践が、英語を使用せず、ポルトガル語とスペイン語でおこなわれる授業である。言語の背景にある歴史性やイデオロギーに関して、脱植民地的、解放的、民衆的な観点から、文化的・認識論的多様

性が重視されている。

大学院プログラムとしては、修士課程として、①バイオサイエンス、②新熱帯生物多様性、③経済学、④教育学、⑤土木工学、⑥応用物理学、⑦歴史学、⑧比較文学、⑨公共政策開発、⑩現代ラテンアメリカ統合、⑪エネルギーと持続可能性、⑫ラテンアメリカ研究、⑬国際関係があり、このうち⑩現代ラテンアメリカ統合と⑪エネルギーと持続可能性に博士課程が設置されている。専門コースとしては、①ラテンアメリカにおける人権、②追加言語の教育と学習、③歴史とラテンアメリカの学習、④教育におけるジェンダーと多様性、⑤現代国際関係論、⑥パラグアイ-ブラジル統合、⑦家族保健における職種研修プログラムが対面方式で、⑧健康管理、⑨基礎教育教員のための国際関係がブラジルオープン大学 (UAB: Universidade Aberta do Brasil) との提携による遠隔方式で設置されている。

(2) 学生について

UNILA の学部課程の在籍者数は増加傾向にあり、2022 年は 6,111 人と、2018 年の 3,809 人と比較して約 1.6 倍増加している。ただし、2022 年の在籍者数のうち、4,080 人がブラジル人、2,031 人が留学生であり、ブラジル人と留学生の割合を 50% ずつにするという UNILA の目標には達していない。参考までに、パラナ州の他の公立大学の学部課程の学生数を確認すると、パラナ連邦大学は 2 万 5,669 人、ロンドリーナ州立大学 (UEL: Universidade Estadual de Londrina) は 1 万 3,696 人、西パラナ州立大学は 1 万 1,362 人 (2023 年) である²³。これらの公立大学と比べると、UNILA は小規模な公立大学であると捉えられる。

一方、大学院課程については、2022 年時に新入生 174 人を含め、修士課程と博士課程に在籍する学生数はあわせて 601 人となった²⁴。2022 年入学の 174 人の国籍の内

訳は、ブラジル 143 人、コロンビア 10 人、パラグアイ 8 人、エクアドル 3 人、アルゼンチン 2 人、ボリビア 2 人のほか、アンゴラ、キューバ、ペルー、ハイチ、モザンビーク、ギニアが 1 人ずつとなっている。一方、専門コースについては、2022 年時で新入生 194 人を含め 252 人が在籍している。新入生の国籍の内訳は、ブラジル 175 人、ハイチ 5 人、パラグアイ 5 人、エクアドル 2 人のほか、コロンビア、ペルー、ウルグアイ、エルサルバドル、ボリビア、ベネズエラ、チリが各 1 人ずつとなっている²⁵。なお、2022 年の卒業生数は、学部課程で 504 人、修士課程と博士課程で 152 人、専門コースで 60 人である²⁶。これら卒業生のキャリアについては、2022 年にモニタリングに関する規則を策定し、UNILA のウェブサイトでも卒業生が自身の卒業後のキャリアを登録できるシステムが開設されているが²⁷、いまのところ（2024 年 7 月時点）情報は公開されていない。

（3）大学評価について

ブラジルでは、国立教育研究所アニシオ・テイシェイラ（INEP: Instituto Nacional de Estudos e Pesquisas Educacionais Anísio Teixeira）が連邦教育省と連携して高等教育機関の評価をおこなっている。その評価として用いられる高等教育質指標の 1 つに機関評価一般指数（IGC: Índice Geral de Cursos Avaliados da Instituição）がある。IGC は、学士課程と大学院課程（修士課程と博士課程）のスコアに基づき算出され²⁸、毎年公表される。2024 年 4 月に公表された 2022 年度の IGC の結果では、UNILA は、ブラジル全体の評価対象の高等教育機関全 2,022 校のうち 65 位に、連邦大学全 106 校のうち 25 位に位置づいた²⁹。また、パラナ州のなかでは、評価対象の高等教育機関全 145 校のうち、パラナ連邦大学（スコア 4.1395、以下、同じ）、西パラナ州立大学（4.0487）、

ロンドリーナ州立大学（3.8775）につぐ、第 4 位（3.8566）という結果であった。これらの結果をみる限り、UNILA の大学としての評価は低くなく、公立大学としての一定程度の質が確保されていると判断される。

3. ラテンアメリカ統合連邦大学（UNILA）の入学者選抜

つづいて、UNILA の入学者選抜方法を確認し、UNILA が求める学生像について検討する。

（1）入学者選抜方法

入学者選抜においては、ブラジル人枠と外国人枠の 2 つの区分が設定されている。その定員数割合は、ブラジル人 50% と外国人 50% となっている。また、クオーター法を採用し、公立高校の卒業生を優先的に受け入れるとともに、黒人、褐色人種、先住民などの経済的・社会的に脆弱な状況にあるものの受け入れも柔軟におこなっている。ブラジル人の入学者選抜の場合、ブラジル全国の大学入学者選抜システムである統一選抜システム（SiSU: Sistema de Seleção Unificada）を通して全国中等教育検定試験（ENEM: Exame Nacional do Ensino Médio）の点数に基づいておこなわれる。

外国人の入学者選抜には、以下の 3 つの区分が設けられている³⁰。すなわち、（1）国際選抜、（2）先住民選抜、（3）難民および人道的ビザ保有者選抜である。2018 年までは、ハイチ地震（2010 年発生）の復興支援としてハイチ選抜が設定されていたが、2019 年に新設された難民および人道的ビザ保有者選抜に統合されている。図 2 は選抜区分別の応募者数の推移である。最も多いのが、国際選抜であり、ついで先住民選抜、難民および人道的ビザ保有者選抜となっている。

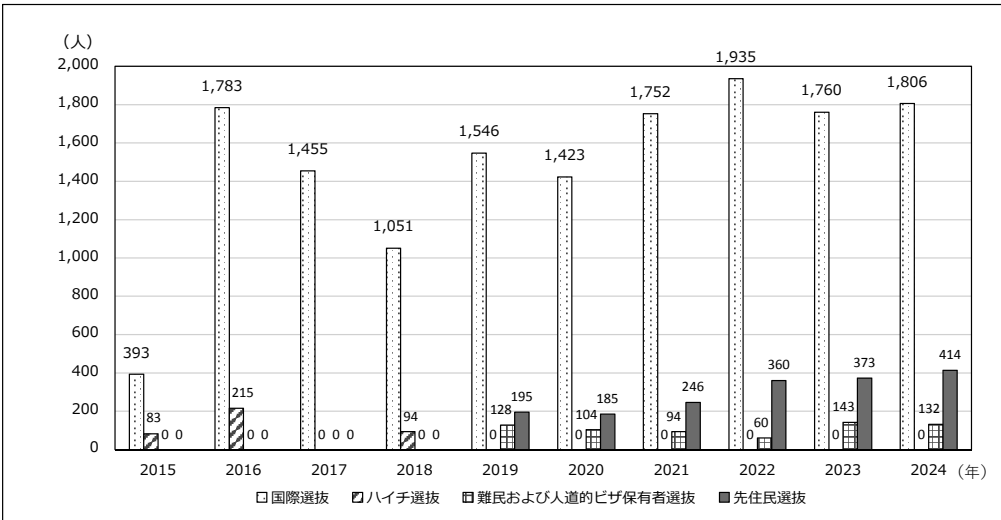


図2 UNILA における選抜区分別応募者数

出所：UNILA の国際関係学部長室（PROINT: Pró-Reitoria de Relações Institucionais e Internacionais）によるプレゼンテーション資料（2024 年 2 月 27 日実施の現地調査で入手）より筆者作成。

表2 UNILA の選抜区分別の応募要件

国際選抜	先住民選抜	難民および人道的ビザ保有者選抜
① 二重国籍であってもブラジル国籍を有していないもの ② ブラジル国外で中等教育または同等の教育を修了しているもの ③ UNILA の学部課程に在籍していないもの ④ 18 歳以上、または入学時に 18 歳に達しているもの ⑤ スペイン語を公用語とするもの：ラテンアメリカおよびカリブ海諸国のいずれかの国籍が法的に証明され、かつ申告されたもの ⑥ スペイン語を公用語としないもの：ラテンアメリカおよびカリブ海諸国のいずれかの国籍を有することが法的に証明され、かつ申告されたもの	① ブラジルを含むラテンアメリカまたはカリブ海諸国に居住し、国籍を有するもの ② 先住民族の村落、共同体、集団に住んでいることを証明するもの ③ 現在 800 以上存在する先住民族の一員であることを認識し、またその一員であると認められるもの ④ 中等教育または同等の訓練を受け、完全に修了しているもの ⑤ 18 歳以上、または入学時に 18 歳に達しているもの ⑥ UNILA の学部課程に在籍していないもの	① 1997 年 7 月 22 日付法令第 9474 号第 1 条に基づき、ブラジルで難民認定を受けているもの ② ブラジルにおいて難民申請者であるもの ③ ブラジルで人道的ビザを取得しているもの ④ 通知の条件に従い、語学力を証明するもの ⑤ 二重国籍であってもブラジル国籍を有していないもの ⑥ 中等教育または同等の教育を修了しているもの ⑦ UNILA の学部課程に在籍していないもの ⑧ 18 歳以上、または入学時に 18 歳に達しているもの

出所：UNILA の国際関係学部長室（PROINT: Pró-Reitoria de Relações Institucionais e Internacionais）によるプレゼンテーション資料（2024 年 2 月 27 日実施の現地調査で入手）より筆者作成。

表2は、各選抜への応募要件をまとめたものである。これらの要件を満たしていることを前提として、入学志願者は、以下の手続きで入学選抜の登録をおこなう³¹。すなわち、(1) UNILA のウェブサイトにある統合学術活動管理システム（SIGAA）にオンラインで登録する、(2) 各選抜プロセスにオンライン登録をする、(3) 国際関係学部部長室（PROINT）が登録を承認する、(4) 学生部長室（PRAE）が社会経済的脆弱性の評価／民族帰属の確認を実施する、(5) 選考委員会が学業成績の評価と分類をおこなう（排除・分類段階）、(6) PROINT がランキング結果を公表する、(7) PROINT が欠員に対する関心を確認するために募集通知を発表する、(8) 候補者が欠員に対する関心を表明する、(9) PROINT が選考の結果を公表する、(10) 入学希望者は PROINT が発行する入学通知に従って事前登録をおこない、学部学位審査部（PROGRAD）が発行する特定の入学通知に従って予備登録する（予備登録段階）というプロセスである。

このうち、(4) の社会経済的脆弱性の評価／民族帰属の確認に関しては、文書審査委員会が受験者の提出した書類を確認し、必要に応じて書類を追加提出するよう通知する。先住民選抜においては民族性について、民族集団の長が発行した身分証明書と、受験者の申告書および帰属申告書の内容から確認される。(5) の学業成績の評価と分類に関しては、中等教育学校またはそれに準ずる学校で履修した科目の総合平均が、通知に含まれる中等学校の枠組みおよびその成績評価尺度に従って算出される。(6) のランキングに関しては、各コースが多様な国籍や民族の学生で構成されることを目的として、分析対象となる受験者は、コース別、国別、民族別に点数の高い順にランクづけされる。その際、第1志望のコースを選択した受験者からはじまり、そのコースの定員が満たされた時点で、第2志望の

コースを選択した受験者に移る。同点の場合は、志願者が希望するコースに関連する科目の成績の平均点が考慮される。それも同点の場合は、最も不利な国からの受験者が上位にランクづけされる。ちなみに、ランキングの公表の際には、授業料全額免除、あるいは半額免除対象か、また、入学後の学資支援（入学金補助、住居費補助、交通費補助など）の対象かどうかといった情報もあわせて提示される。

応募者の状況について、最も応募者数が多かった2022年を例としてみると、外国人枠においては、世界26カ国、3大陸から2,354件の応募があった³²。国際選抜では、志願者の大半がハイチ出身者であり、カリブ海諸国からの応募者は1,143人だった。また、パラグアイ（233人）、コロンビア（205人）、ペルー（101人）、ベネズエラ（52人）からの志願者も目立った。国際選考で最も人気があったコースは医学で380人、ついで国際関係と統合（103人）、インフラ土木工学（100人）、行政学と公共政策（96人）、言語学（外国語としてのスペイン語・ポルトガル語）（81人）であった。先住民選抜では、114の定員に対し、ブラジルをはじめとするラテンアメリカ7カ国70の民族から359人の応募があった。難民および人道的ビザ保有者選抜には、60件の申請が登録された。ラテンアメリカでは、ハイチ（40人）、キューバ（3人）、エルサルバドル（1人）、ベネズエラ（1人）からの申請があり、さらにアフリカではアンゴラ（4人）、コンゴ民主共和国（2人）のほか、アジアにおいては中国（1人）からの申請もあった。

以上のUNILAの入学者の状況からは、ハイチ出身者を主として、ブラジルと国境を接する国々（パラグアイ、コロンビア、ペルーなど）からの入学希望が多いが、意外にも国境の近いアルゼンチンからの入学希望者は少ないという特徴がみえてくる。そして、

先住民選抜があることで民族的多様性、さらに、難民および人道的ビザ保有者選抜によって、アフリカやアジアの地域性も加わっている点もその特徴として指摘できる。

4. 考察

以上、UNILA の設立経緯と入学者状況をみてきた。そこから明らかになったことをまとめるとつぎの姿が導きだされる。

1 つめは、ヨーロッパやアジアのモデルとは異なるラテンアメリカモデルとしての大学の姿である。第1節で述べたとおり、ラテンアメリカの大学は植民地大学を起源として発展を遂げてきた。これに対し、UNILA は学術分野の構成、教授言語、入学者選抜において、被植民地や被抑圧者の視点を取り入れた独自のアプローチを採用している。特に、大学の国際化の文脈で教授言語として推奨される英語の使用をあえて避け、スペイン語とポルトガル語によるバイリンガル教育を実践していることは、「国際化＝欧米化」という潮流に対する明確なアンチテーゼとみなすことができよう。このように、ラテンアメリカ地域特有の文化的・社会的背景を反映した UNILA の取り組みは、ラテンアメリカ独自の大学モデルを構築しようとする試みとして位置づけられる。

2 つめは、1 つめと関連することではあるが、社会的に脆弱な立場にある人々に開かれた大学としての姿である。UNILA は、入学者枠として先住民や難民、さらには人道的ビザ保有者を対象とした入学枠を設けており、ラテンアメリカ・カリブ海地域を越えて幅広い地域から学生を受け入れている。従来、大学教育は一部の社会的エリート層に限定される傾向が強かったが、UNILA はその枠組みを超え、世界中の社会的に疎外されてきた人々に対して門戸を開放する姿勢を示している。これにより、多様な国籍、

民族、社会的背景をもつ学生が教育・研究に参加する、包摂的かつ多様性を重視した学びの場を提供している。

3 つめは、学生が国境を越えてやってくるという大学の姿である。上述のように UNILA は留学生の受け入れ体制において独自の取り組みを進めてきた。一方で、ヨーロッパやアジアの地域統合の傾向と比較すると、学位の相互承認や単位互換制度など、国家を越えた大学間連携は強調されていない。UNILA の場合、そうした取り組みよりもむしろ、ラテンアメリカを主とした多様な国籍や民族、文化をもつ学生の受け入れに力点が置かれていると捉えられる。

以上を通じて浮かび上がるのは、単なる地理的な地域（ラテンアメリカ大陸）や言語的な地域（スペイン語圏とポルトガル語圏）の統合にとどまらず、これらの地域が歴史的に共有してきた「被抑圧者」としての知識や認識を統合する場を理想とする姿である。一方で、こうした理想の実現に向けて歩みを進めはじめたばかりの新しい試みであるがゆえ、UNILA で修得した単位がブラジル国外でどのように認定されるのかや、UNILA の学位にどのような価値が置かれるかについてはまだ未確定の段階といえよう。

5. おわりに

UNILA は、ラテンアメリカの地域統合という使命の下、ラテンアメリカ地域との関連の強い分野とカリキュラムで構成され、教授言語としてポルトガル語とスペイン語のバイリンガルで運営されたり、先住民や難民および人道的ビザ保有者を入学者の対象に含めたりするなど、ヨーロッパやアジアの地域統合における大学連携とは異なる姿でそれが推進されていることが浮き彫りとなった。しかしながら、在籍者数が6,000人程度であることは、それがまだ小さな

実践であることを示している。それゆえ、UNILA の挑戦がラテンアメリカという大きな地域の統合モデルとして発展していくのかどうかは、今後の動向を継続的にみていく必要がある。

また、本研究では UNILA の成果については詳細に検討できていない。特に学生については、UNILA への入学動機や学生生活の実態、卒業後の進路などは不明である。UNILA が果たしてラテンアメリカの地域統合に貢献するものとなっているのか、あるいは社会的に脆弱な立場にある人々に資するキャリアになっているかなど、これらの点については今後の調査すべき課題として残されている。

【付記】

本研究は JSPS 科研費 23H00067 の助成を受けた研究成果の一部である。

【注】

- ¹ 2010 年 1 月 12 日付法律第 12189 号第 2 条。
- ² ブラジルにおいては、2012 年にクォーター法が制定され、連邦大学への黒人、褐色人種、先住民の定員数が割り当てられた。しかし、いまだに人種・民族的、経済的な要素は、全国中等教育検定試験 (ENEM、日本の大学入学共通テストに相当) の点数や高等教育機関への進学の可能性に影響を与えているという実態がある (Folha de S. Paulo, *Pobre Preto Tem Menos Chance de Fazer Faculdade do que Pobre Branco, Diz Estudo* (『貧困層の黒人は貧困層の白人より大学進学率が低いとの調査結果』2022 年 10 月 30 日付 <https://www1.folha.uol.com.br/educacao/2022/10/pobre-preto-tem-menos-chance-de-fazer-faculdade-do-que-pobre-branco-diz-shtml> 2024 年 7 月 10 日取得).)。
- ³ 管見の限り、ブラジルでは UNILA のほかに、アフリカ系ブラジル人ポルトガル語圏国際統

合大学 (UNILAB: Universidade da Integração Internacional da Lusofonia Afro-Brasileira) において、ポルトガル語圏諸国共同体 (CPLP: Comunidade dos Países de Língua Portuguesa) の加盟国であるアンゴラ、ブラジル、カーボヴェルデ、ギニアビサウ、モザンビーク、ポルトガル、サントメ・プリンシペ、東ティモール、赤道ギニアからの留学生が学生の総数の半分となるように入学者枠が設定されている。

- ⁴ 齊藤泰雄「ラテンアメリカ地域における大学の国際連携」日本比較教育学会『比較教育学研究』第 48 号、2014 年、131-141 頁。
- ⁵ 齊藤泰雄「ラテンアメリカの高等教育：その変貌と改革課題」広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第 42 号、2011 年、177-193 頁。
- ⁶ 齊藤泰雄「メキシコにおける先住民民族大学＝インターカルチュラル大学の制度と機能」『先住民民族の教育権保障に関する国際比較研究』第 3 巻 (最終報告書)、2015 年、135-152 頁。
- ⁷ 齊藤、2014 年、前掲論文、131 頁。
- ⁸ ブラジルで最初の大学は、1912 年に設立されたパラナ連邦大学 (UFPR: Universidade Federal do Paraná) であり、つづいて、1920 年にリオデジャネイロ大学 (UFRJ: Universidade Federal do Rio de Janeiro)、1934 年にサンパウロ大学 (USP: Universidade de São Paulo) が設立されている。
- ⁹ 齊藤、2014 年、前掲論文、132 頁。
- ¹⁰ 同上論文、132 頁。
- ¹¹ Santos, Eduardo. “Internacionalização da Educação Superior nos Marcos da Integração Regional da América Latina: o Caso da Universidade Federal da Integração Latino-Americana”. *EccoS - Revista Científica*, No. 42, 2017, p.70.
- ¹² 齊藤、2014 年、前掲論文、133-134 頁。
- ¹³ UNILA. *Plan de Desarrollo Institucional - PDI 2019-2023* Foz do Iguaçu: UNILA, 2019, p.36.
- ¹⁴ Aparecida, Andrés. *A Educação Superior no Setor Educacional do Mercosul*. Brasília-DF: Câmara dos Deputados, Consultoria Legislativa, 2010, p.7.
- ¹⁵ MERCOSUL Educacional. *O que é o Setor*

- Educacional do Mercosul* (<https://edu.mercosur.int/pt-br/institucional/o-que-e.html> 2024 年 7 月 10 日取得).
- ¹⁶ UNILA. *Instituto Mercosul de Estudos Avançados / IMEA* (<https://portal.unila.edu.br/imea> 2024 年 7 月 15 日取得).
- ¹⁷ UNILA. *A UNILA em Construção: Um Projeto Universitário para a América Latina*. Foz do Iguaçu: IMEA, 2009, pp.19-22.
- ¹⁸ *Ibid.*, p.16.
- ¹⁹ *Ibid.*
- ²⁰ UNILA. *Plan de Desarrollo Institucional - PDI 2019-2023* Foz do Iguaçu: UNILA, 2019, p.28.
- ²¹ Pontes, Suelen. *A Inclusão da Diversidade no Ensino Superior: um Estudo sobre a Universidade Federal da Integração Latino-Americana (UNILA) numa Perspectiva das Epistemologias não Hegemônicas*. Dissertação: Universidade Nove de Julho, 2015, p.81.
- ²² Santos, Boaventura de Sousa. *Universidade no Século XXI. Para Uma Reforma Democrática e Emancipatória da Universidade* (3ª edição). São Paulo: Cortez, 2011.
- ²³ INEP. *Painel de Estatísticas do Censo da Educação Superior* (<https://www.gov.br/inep/pt-br/areas-de-atuacao/pesquisas-estatisticas-e-indicadores/censo-da-educacao-superior/resultados> 2024 年 7 月 15 日取得).
- ²⁴ UNILA. *Relatório de Gestão Integrada 2022*. Foz do Iguaçu: UNILA, 2022, p.79.
- ²⁵ *Ibid.*, pp.80-81.
- ²⁶ *Ibid.*, p.60.
- ²⁷ UNILA. *Mapa de Egressos da UNILA* (<https://portal.unila.edu.br/egressos/mapa> 2024 年 7 月 15 日取得).
- ²⁸ 高等教育質指標についての詳細は別稿に譲るが、IGC は主としてつぎの 3 つの要素から算出される。1 つめは、学部課程について全国学生成績試験 (ENADE: Exame Nacional de Desempenho dos Estudantes) における学生の成績に基づき INEP が評価する予備的コースコン
- セプト (CPC: Conceito Preliminar de Curso)、2 つめは、修士課程および博士課程について施設設備や教育資源、教員の資質などに基づきブラジル・高等教育支援・評価機構 (CAPES: Coordenação de Aperfeiçoamento de Pessoal de Nível Superior) がおこなう評価、3 つめは、教育機関における学部課程および大学院課程の入学者数の割合である。
- ²⁹ UNILA. *Notícias: UNILA Conquista Quarta Posição no Paraná no Índice Geral de Cursos* (『ニュース: UNILA が IGC でパラナ州 4 位に』 2024 年 8 月 13 日付 <https://portal.unila.edu.br/noticias/unila-conquista-4a-posicao-no-parana-pelo-igc-2022> 2024 年 8 月 15 日取得).
- ³⁰ 2012 年 1 月 12 日付法律第 12189 号第 4 条第 14 項 (V) に「この地域のさまざまな国からの候補者に門戸を開き、選抜はポルトガル語とスペイン語の両方でおこなわれ、この地域の国々からの候補者間の対等な条件での競争を保証するテーマとアプローチを対象とする」の規定がある。
- ³¹ 2024 年 2 月 27 日実施の現地調査での UNILA の国際関係学部長室 (PROINT: Pró-Reitoria de Relações Institucionais e Internacionais) によるプレゼンテーション資料。
- ³² UNILA. *Notícias : Seleções Internacionais da UNILA Recebem 2.354 Inscrições* (『ニュース: UNILA 国際選抜に 2,354 件の応募』 2022 年 3 月 17 日付 <https://portal.unila.edu.br/noticias/selecoes-internacionais-da-unila-recebem-2-354-inscricoes> 2024 年 7 月 10 日取得). 図 2 の数値と齟齬があるのは、応募者のうち不受理となった件数の扱いの違いによるものであると考えられる。

Federal University of Latin American Integration (UNILA) in Brazil: A University on a Journey toward Regional Integration

Noriko TAMURA
Osaka Metropolitan University

With the aim of achieving economic regional integration, MERCOSUR (the Southern Common Market) was established in Latin America in 1995. The Federal University of Latin American Integration (UNILA), a federal university in Brazil, located near the borders of Brazil, Argentina, and Paraguay, was established in 2010 within the framework of MERCOSUL. Its mission is to contribute to Latin American integration, regional development, and the promotion of cultural, scientific, and educational exchange in Latin America, particularly within MERCOSUL. UNILA aims to provide higher education, foster research across various fields of study, and promote the expansion of the university's scope and influence.

This paper focuses on UNILA, analyzing its characteristics through its history, educational content, and student intake. It draws data for this analysis from academic papers, regulations, UNILA's official website, and materials obtained during a field survey conducted on February 27, 2024.

The findings are as follows: First, UNILA represents a university model distinct from those in Europe or Asia and unique to Latin America, adopting an original approach that incorporates the perspectives of the colonized and the oppressed in its academic structure, teaching languages, and admissions processes. Second, UNILA is characterized as a university that embraces socially vulnerable groups. It offers admission slots specifically for indigenous peoples, refugees, and holders of humanitarian visas, welcoming students from a wide range of regions beyond Latin America and the Caribbean. This creates an inclusive and diverse educational environment where students of various nationalities, ethnicities, and social backgrounds engage in education and research. Third, UNILA exemplifies a university that draws students across borders. Rather than emphasizing inter-university collaborations such as mutual degree recognition or credit transfer systems across countries, UNILA focuses on attracting students with diverse nationalities, ethnicities, and cultures, primarily from Latin America.

Through these characteristics, UNILA emerges as more than a space for geographical or linguistic integration of Latin America as a continent or the Spanish- and Portuguese-speaking world. It aspires to be a place where the historically shared knowledge and consciousness of the oppressed within these

regions are integrated. However, as a new institution that has only recently begun its journey toward realizing these ideals, challenges remain, including issues such as how credits earned at UNILA will be recognized outside Brazil and the value placed on UNILA degrees.